

2. 学生は、主として研究科構成委員で運営される言語コミュニケーション文化学会への参加をはじめ、各専門分野の全国、関西支部等の学会・研究会へも積極的参加し、発表を行っている。学生の学会発表数は、2003年度22回、2003年度20回、2004年度24回であった。結果から一定の評価ができる。
3. 研究科の専門性が生かせる就職先の開拓が必要である。
4. 成績評価については、ネイティブ教員と日本人教員、専門領域間で若干のばらつきが見られる。

(改善の具体的方策)

1. 授業評価アンケートの結果を工夫し公表する。
2. 学校関係に関して、各教員個人のネットワークを生かして多くの学校への就職ネットを張り巡らせ、就職情報を早く入手する。
3. 大学院でもGPAの導入も視野にいたれた成績評価方法・評価基準の見直しを行う。

### 9.3.5 教育の質の向上

**【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）**

- (必須要素) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<2003年度に設定した目標>

1. 少人数のクラスを堅持しながら、高い質の授業を行う。
2. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するためのFDの実施。
3. 毎年、シラバスを作成することによって、組織だった授業計画を実施する。
4. 学生による授業評価を実施することによって授業を改善していく。

(現状の説明)

1. 2005年度履修登録状況は、研究科の共通講義科目の平均履修者数は6.8人、共通演習科目は9.0人、領域研究科目は4.9人である。全体としては比較的少人数のクラスの授業が実践されている。

なお、授業の開講方法は、昼間中心の履修者、夜間中心の履修者が、それぞれが2年間で全科目履修を履修できることを配慮し時間割を組んでいる。共通科目は夜昼共に毎年度（2学期間）に各1回以上、領域研究科目は3学期間に各1回以上開講することを原則としている。

2. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するため、FDの研修会を行っており、以下の通り実施した。

### 第1回FDワークショップ

目的：言語研究・言語教育学のデータ収集・データ整理

日時：2001年12月22日（土）10:00～15:00

場所：西宮上ヶ原キャンパス第4別館305号教室

講師：梅咲敦子（帝塚山大学人文学部英語文化学科助教授）

テーマ：「初めてのCOBUILD Direct.初めてのWORDSMITH」

### 第2回FDワークショップ

目的：英語コーパス（British National Corpus, Wordbanks）の利用方法

日時：2004年9月22日（水）15:00～16:30

場所：西宮上ヶ原キャンパス第4別館302号教室

講師：館野純子（株式会社ネットアドバンス Japan Knowledge事業本部小学館コーパスネットワーク担当）

3. シラバス（演習科目含む全科目）は毎年春学期に作成し、学生に冊子として配布しており、学生が履修計画を立てるために活用されている。
4. 学生による授業評価は毎年実施しているが、研究科としての公表はおこなっていない。学生へのフィードバックは各担当教員に委ねられている。各担当教員は次期以降の授業内容の向上に役立っている。

なお、学生が記入した授業評価は、学生が直接事務室に提出し、担当教員が成績報告書を提出するまで見ることができないようにし、学生への授業評価に影響がでないよう配慮している。

5. 学生の満足度調査は、授業評価の中で行っているが、現状では、これを統計的に集計してはならず、学生への公表も行っていない。学位記授与式の後で修了者に対して行う在学期間全体の満足度調査については、集計して研究科教職員に公開している。

### （点検・評価の結果）

1. 比較的少人数のクラスの授業が行われている。
2. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するためのFDワークショップの実施は、2001年度と2004年度に実施されているが、定期的に行われていない。
3. 開設当初より、毎年、シラバスが作成されており、学生の授業計画に役立っている。学生には必要な情報が十分伝わっている。
4. 学生による授業評価を実施することによって、教員の授業改善に役立っているが、学生への公表ができていない。

### （改善の具体的方策）

1. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するため、今後はFDワークショップを毎年実施する。
2. 引き続き学生による授業評価を実施し、これを参考として授業改善を行っていく。学生への公表について工夫していく。